

**Bチャレ 新たなつながり部門 実績報告書**

<b>団体名</b>	NPO法人地域ネットワークとらいあんぐる	<b>作成日</b>	3月24日
<b>事業名</b>	“専門職と地域住民をつなぐ”架け橋事業		
<b>協働団体</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療法人社団 龍岡会 龍岡栄養けあびっと</li> <li>●東京都理学療法士会 文京区支部</li> <li>●あしたほっくり（ケアマネ等のグループ）</li> <li>●地域の居場所（つゆくさ荘・さきちゃんち・こびなたぼっこ※）</li> <li>●文京区社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター・フミコム</li> <li>●文京区福祉部高齢福祉課</li> <li>◎暮らしの保健室（保健師・看護師） ◎加賀谷歯科医院（歯科医師）</li> </ul>		
<b>自団体及び協働団体の役割分担</b>	<p>◆NPOとらいあんぐる：企画・運営・関係構築と人材育成・高齢者の社会参加を促進する外注・関係各所との連携調整や情報共有と蓄積等の事務局機能</p> <p>◆龍岡栄養けあびっと：管理栄養士の派遣による地域住民との関係構築と助言、および地域で活動できる新たな管理栄養士の発掘と人材育成</p> <p>◆東京都理学療法士会文京区支部：理学療法士の派遣による地域住民との関係構築と助言、および地域で活動できる新たな理学療法士の発掘と人材育成</p> <p>◆地域の居場所（つゆくさ荘・さきちゃんち・こびなたぼっこ※）等：地域住民と専門職の関係構築の機会提供と専門職受入補助</p> <p>◆文京区福祉部高齢福祉課：事業に対する援助と、区民の複合的な課題にリーチした際の当事者への支援、関係各所との調整と体制整備</p> <p>◆文京区社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター：地域の居場所におけるプログラム開発の調整 フミコム：事業運営サポートなど</p> <p>&lt;次年度以降を見据えた試行的取組み&gt;</p> <p>◆暮らしの保健室：他専門職（看護師・保健師）へ展開の可能性検証</p> <p>◆歯科医師（加賀谷 昇）：他専門職（歯科医師）へ展開の可能性検証</p>		

<b>提案背景・目的</b>	<p>＜提案背景＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●当団体は、従前から高齢者の介護予防・フレイル予防活動等の事業を通じて、地域の架け橋として、週に延べ約150人の区民と時間を共有し、継続的な関係性を保持している。</li><li>●R5年11月よりBチャレ・チャレンジ部門の援助を得て、専門職と地域住民を繋ぐ体験会を実施。架け橋となる人材が繋ぎ役として両者の関係性の構築を促進することで、早期に課題にリーチできることが実証できた</li><li>●専門職のアウトリーチ活動において、従来のいわば「出張・待ち構え型」とは異なる「地域巻き込まれ型」として、「相談者と支援者（専門職）」という関係性を超えて、フラットで継続的な関係性を構築でき、個々人が抱える複合的な生活上の課題を早期に気軽に相談できるようになる可能性が見えた</li><li>●当団体がこれまでの実践から得た知見やノウハウを強みとし、さらなる拡充を目指す事業展開が見込める</li></ul> <p>＜提案＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域住民の生活に近い地域の居場所で、地域住民・専門職の双方と既に継続的な関係性がある「架け橋（つなぎ役）」が間に立って両者を繋ぐ。</li></ul> <p>この手法により、関係性の構築を促進され、地域住民が抱える多様な課題の相談を身近にすることで、重篤化する前に課題を予防的に改善していく仕組みを構築する</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●現段階で、地域住民と専門職の架け橋（つなぎ役）となるのは当団体であるが、各地にこの役割を担う地域住民を育成していくことが、地域住民の社会参加推進、および、地域のつながりの強化、さらには、持続可能な仕組みにする点からも重要と考える</li></ul> <p>＜目的＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●この提案をモデル事業とし、将来的には、区内全域の各居場所への展開を図ることで、地域のつながりを強化しながら持続可能にし、文京区の地域福祉と区民の健康増進を支える仕組みの一端として貢献する</li></ul>
<b>事業内容</b>	<p>①「おつゆの会」での管理栄養士との協働による専門職を交えた安心して気軽な相談の場のプログラム開発</p> <p>○管理栄養士によるプログラム開発内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●レシピ 9パターン・13品提供</li><li>●当日必要なものリスト11回分作成</li><li>●「安全に楽しく調理するための確認事項」作成</li><li>●「安全に楽しく調理するため」の居場所運営者側の確認事項作成</li><li>●他の専門職と一緒に気がるな雰囲気の中で過ごせるような時間の創出</li><li>●多職種との連携について（おつゆの会終了後、多職種との意見交換）</li></ul>

## 事業内容

## ○実施会場

- ・つゆくさ荘 6, 11, 1月 (3回実施・参加者数のべ33人)
  - ・こびなたぼっこ※ 7, 9, 11, 1月 (4回実施・参加者数のべ53人)
  - ・さきちゃんち 8, 10, 12, 2月 (4回実施・参加者のべ92人)
- 合計178人

## ○参加専門職

(上記以外につゆくさ荘では調理なしで6回実施専門職参加)

開催17回・19人 (プログラム開発の管理栄養士は除く)

管理栄養士7人、理学療法士5人、ケアマネ5人、看護師2人

## ②「みんなでねっと」での地域住民の活動の場へ専門職をつなぐ

## ○開催会場

- ・大塚地域活動センター オープンスペース及びオンライン (6月～2月 9回実施 参加者合計のべ387人)

## ○参加専門職

開催9回・10人 (内1回をオンライントライアル・アドバイザーとして)

理学療法士7人、ケアマネ2人、歯科医師1人

(いずれの活動もおしゃべりの中から専門性を生かせる場面があったら話してもらう)

理学療法士 「痛みコーチング」(腰痛、膝痛、肩痛などの方へ自宅でできる運動方法の紹介や、生活動作で痛みが出にくくする方法など)

ケアマネ 「介護のおしゃべり会」(ケアマネの仕事内容や、サービスの種類についてなど)

歯科医師 「お口どうですか？」(定期検診をして衛生面、機能面を維持。そして毎日トレーニングをして歯を磨くことの大切さなど)

③地域につながる専門職の人材育成・アドバイザーとの協議など  
各専門職とはBチャレに参加してもらうため依頼書等を交わした

## ●龍岡会(管理栄養士)・アドバイザーとの活動も含む

\*事業実施に関する随時の意見交換(Line, Zoom, 対面による)

\*健康フェスタでの管理栄養士活動視察

\*地域に出る活動について管理栄養士がどう感じるかヒヤリング

・候補者の人材育成のため「おつゆの会」実施の際の注意点のレクチャー

・7月より「おつゆの会」実践

(調理時の段取り、地域住民との関わり方、多職種との関わり方についてなど)

## 事業内容

- ・ 随時フィードバック
- ・ 新たな人材発掘と育成方法について協議
  
- 東京都理学療法士会 文京区支部
- \* 窓口との打ち合わせ
- \* 文京区支部員との打ち合わせと意見交換
- \* 今年度の新体制づくり
- ・ チャレンジ部門から引き続き実践
- ・ 実施ごとに内容報告と意見交換
- ・ 多職種連携にあたって、とらいあんぐるから言葉選びについてフィードバック
  
- あしたほっくり（ケアマネ等）・アドバイザーとの活動も含む
- \* オンラインで社協ととらいあんぐるの活動紹介
- \* 定例会におじゃまして趣旨説明と協力の要請
- \* アクティブ介護に協力参加しつながりづくり
- \* 交流会に参加して親睦を図る
- \* グループLineで報告や意見交換など
- ・ 「おつゆの会」参加前に参加にあたっての注意点レクチャー
- ・ 「おつゆの会」参加
- ・ 終了後に意見交換
  
- \* 他の専門職でも課題となっていた参加時間の制約を解消するために、みんなでねっとにオンラインで参加トライアル→普段は聞く機会がないことを直接専門職に、和やかなおしゃべりとして聞くことができたため、有益な時間の共有が可能ということがわかった
- ・ 他の専門職にもオンライン参加トライアルを実施（合計3回）
  
- ④ 地域住民と専門職の「架け橋・つなぎ役」となる人材育成
- ・ 6/10 さきちゃんちスタッフ説明
- ・ 7/15 さきちゃんちおつゆの会スタッフ説明会
- ・ 7/24 つゆくさ荘でお手伝いスタッフとして参加（フレイルサポーター・回の主旨を説明）
- ・ 8/27 さきちゃんち運営スタッフと「おつゆの会」実践
- ・ 11/16 さきちゃんちスタッフ（保健室カフェメンバー含む）とミーティング
- ・ 12/8 さきちゃんち運営スタッフと今後のことについてミーティング
  
- ・ こびなたぼっこ※運営スタッフと「おつゆの会」実践（7/8、9/9、

11/11、1/20)

・つゆくさ荘スタッフ役割実践（8/28、9/25、10/23、11/27、12/18、1/29、2/26）

・さきちゃんちスタッフ役割実践（10/22、12/17、2/25）

\*役割を少しずつ増やしていく…とらいあんぐるが行っている役割（専門職、地域住民と良好な関係性を保ち、それぞれの専門職の特色を理解して住民にマッチングしていく。また食事前にお口の体操をし、オーラルフレイル予防の大切さを啓発する。会のファシリテーターとなえる。）を分割して数名で担ってもらう

## 事業内容

<企画運営事務局活動>

●①～④を企画運営

●高齢者の社会参加を促進するために役割創出（数字に強い方には、人件費明細書表の作成・源泉徴収税の管理・税務署への申告・支払い調書作成・行事保険の申請など、工作が得意な方には、オーラルフレイル啓発時のパネル作成・郵便物の宛先シール作成など）普段から住民とのつながりを大事にし、とらいあんぐるの活動を通して「いきがい」を持ってもらえるように努めている

●専門職参加の調整（PTを軸として、別日を他の専門職が担当できるように連絡をとる）

●専門職参加前の注意点を伝える（・ご専門の視線は持ちつつ、住民の活動に巻き込まれてください ・活動中におしゃべりを通して出てきた言葉の中に専門性が活かせることがあったらお話してください ・あくまでも相談会ではありません ・課題解決者として参加せず、1人の人として関わってください ・おしゃべりの中で全く専門性が活かされない日もあるかもしれませんが、気にせず住民と仲良くなることを楽しんでください）

●参加後のフィードバック（・1つの食品で健康になれると誤解されるような発言は控えてもらう ・組織を代表して参加しているのではなく個人として参加している意識でいてほしい ・頼ってもらって解決していくのではなく、おしゃべりの中で住民が予防的な生活をして行けるきっかけづくりをしてほしい ・言葉選びを考えてほしい<多職種が一緒になる場合、表現1つで自分の専門の方が優越であると感じとられることもある>など）

●新たな人材の発掘と関係性構築

●多職種連携のための仕掛けづくり（おしゃべりの内容によっては多職種が連携できる話題がある。例えば住民から「骨粗しょう症」の不安がでてきた時は、運動面をPTに食事面を「管理栄養士にとふっていけるようにする。そして事例を参加していなかった他の専門職にも伝えることで、連携をする意識づけにつなげる）など

<b>協働団体 or 利用者の声</b>	<p>※別紙事例を参照</p> <p>①参加者「普通の運動教室に通っていたら、こんな風にサポートしてもらうことはなかった！ モーリンのところに行っていてよかった！」</p> <p>②参加者「医療機関では、こんなに話をきいてもらえない。今日は来てよかった」</p> <p>③専門職「地域で活動する人を探すのは難しい。そして任せられるようになるまではもっと難しい！でも探し続けますね」</p> <p>④架け橋人材「こんなんでいいのかな〜？」と不安でしたが、とらいあんぐる「それがいいですよ！しっかりつないでいますね！」と自然と行っている行動について承認していく</p> <p>担当課コメント…</p> <p>今年度から在宅医療検討部会の下にワーキンググループを設置し、3回実施した。</p> <p>本ワーキンググループには当該団体代表者の大和田氏にも参加いただき、活発に意見交換を行ったところであり、主に、地域には制度の狭間に陥り、孤独・孤立を抱えている方が顕在化している状況であることから、そういった方に対して、多職種連携及び地域支援者でどのようにアプローチしていくのか、という課題が抽出されたところである。</p> <p>このような課題に対し、現在Bチャレにおいて当該団体で実施している、地域に身近なところで「架け橋」となる人材をつくり住民をつないでいく取組が、今後一層重要性を増すのではないかと考えているため、事業の更なる推進を期待したい。</p>
<b>協働による効果</b>	<p>医療と介護の一体的実施のワーキンググループに参加し、多様な専門職の状況を聞くことができ、専門職と住民のネットワークは特に介護予防という視点で接点が少ないことが分かった。その課題について、当事業に取り入れ、活動を推進することができた。薬剤師会会長と接点ができた。</p> <p>管理栄養士との連携では、他の居場所で開催していく際の衛生面のルールづくりや、簡単で栄養価の高いレシピの作成ができたという効果があった。</p> <p>理学療法士との連携では、住民が生活の中で痛みを予防するきっかけづくりができたという効果があった。</p> <p>あしたほくると連携を進めるなかで、介護保険サービスを受けていない人たちにサービスの情報を伝えることができた。</p>

## 成果目標の達成度

## &lt;ゴールイメージ&gt;

## ◆プログラム開発：

・今年度実施した地域の居場所においてプログラムのスキームやノウハウがパッケージとして形作られ、次年度以降、他地域への展開が見込める状態である

→専門職アドバイザーによるレシピが9パターン13品目、衛生面の確認事項＜参加者用・居場所運営者用の2つ＞を作成し、他の人に広められる形になった。

## ◆取組の定着：

・既存1か所、プラス新規2か所でおつゆの会が定期的に行われている

→実施結果、来年度自立開催が1か所でき、新たな開催場所を増やせる状況となった。

・専門職が毎回1人以上参画している

→「おつゆの会」を担当できる管理栄養士は1人育成することができた。また、PTだけでなくケアマネ、看護師、歯科医師の参加も達成できた。特にシニア食堂での関わりは、自然にかつ継続的な関わりができることがわかった。また、みんなでねっとはオンラインの活用その他、Lineチャットなど多様なつながりをつくることができた。

・課題が潜在している懸念のある高齢者が毎回2人以上参加している

→毎回2人以上の参加は達成されていて、継続的に関わることで、適切なタイミングで専門職の支援につなげられることもわかった。

## ◆他専門職への水平展開を見据えた試行的取組み：

・さきちゃんち、および、みんなでねっとでの試行的取組みで、看護師・保健師・歯科医師等の参画の可能性を検証し、次年度以降の取組みに反映できる状態である。

→地域に出るきっかけがなかった専門職が、参加者との信頼関係を築き、発見された課題に対してアドバイスもできるようになってきている。今後も様々な専門職と関係をつくり、地域に出るきっかけづくりをしていきたい。ただ、専門職がより参加しやすい環境づくりに力を入れる必要も見えてきた。

専門職が地域に出る際の壁になることとして、組織によっては業務として認められず休みを取って参加しなければならないという状況があり、負担感があったということが分かった。専門職が地域に出るための支援として、地域につながる専門職を増やしていくためには、民間の団体からの依頼だけでは組織の理解を得ることに限界があるため、行政にも協力依頼をおこなっていただくなどといった形での後押しがあると、より多くの専門職が業務として地域に出やすい環境をつくるのが可能になるのではないかと感じた。

	<p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 架け橋人材の育成の成果と課題</li> </ul> <p>→各居場所で架け橋となり得る人材の確保ができた。参加者として場に来るだけではなく、地域住民に架け橋という役割をになっていただくことで、役割を持った社会参加につながっていくことも有意義であると考えている。今後はさらに、とらいあんぐるが担っている役割を「架け橋人材」に分担しながら、どういうふるまいが重要かを伝えていく。ただ、普段のおしゃべりの延長で専門職の話をとって持論を話し出すという場面が見られたため、専門職をサポートする役割として聞く姿勢を身に着けることができる研修等も必要であると感じた。</p>
今後の活動予定	<p>①地域の中に入る専門職を増やし、活動するプログラムを実施し、種類も増やす（シニア食堂の開催力所を増やし次年度自立する食堂もつくり、みんなでねっとは区内各地域での会場開催を目指す）</p> <p>②地域活動につながる専門職の人材育成（地域活動に参加する際に注意する点をまとめた資料を作成し、専門職が参加する前に提示。また、終了後には意見交換できる関係性もつくる）</p> <p>③地域住民と専門職の「架け橋（つなぎ役）」となる人材育成（地域住民を見守る目線、専門職と良好な関係性を築き、専門職に話をふれる力（傾聴やファシリテーションなどの研修受講も検討）オーラルフレイル予防の知識をもち、食べる前に予防のための時間をつくれる）</p> <p>④①～③の企画運営（とらいあんぐる事務局機能）*関係構築が最重要</p>

別紙 1：事業スケジュール(報告版)

別紙 2：収支報告書

別紙 3：関係者マップ

※追加別添 1：この事業を通じて制作したチラシなどのデータ

※追加別添 2：この事業の様子が分かる公開可能な写真データ（10枚以内）

※追加別添 3：この事業にかかった費用の根拠資料の原本（領収書や支払い明細書など）

【提出先】




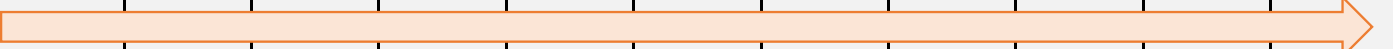
E-mail：fumikomu@bunsyakyō.or.jp 問合せ：03-3812-3044（担当：近藤・篠崎）



## 別紙1：事業スケジュール

団体名：NPO法人地域ネットワークとらいあんぐる

※①～④の番号は「事業概要」参照

実施内容 / 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①管理栄養士とのプログラム開発												
①食プログラム開催 専門職をつなぐ			● 氷川下つゆく さ荘	● こびなたぼっ こ※	● WSさきちゃ んち	● こびなたぼっ こ※	● WSさきちゃ んち	● 氷川下つゆく さ荘 こびなたぼっ こ※	● WSさきちゃ んち	● 氷川下つゆく さ荘 こびなたぼっ こ※	● WSさきちゃ んち	
②地域住民の活動の場へ専門職を つなぐ～体操プログラム開催 専門職をつなぐ			●	●		●	●		●	●	●	
③専門職の人材育成												
③専門職の体験機会開催 (当該人材との調整による)			(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)			
④「架け橋（つなぎ役）」 の人材育成												
④架け橋（つなぎ役）の体験機会 開催（当該人材との調整による）			●	●		●	●		●	●	●	
企画アドバイザーとの協議	●	●	●	●			●	●	●	●		
企画運営・事務局活動												
フミコム/関係課との会議	●			●			●			●		

\* 列の数・行の幅は必要に応じて変更してご記入下さい

別紙 2 : 収支報告書

団体名 : NPO法人地域ネットワークとらいあんぐる

収入 835,500 円

費 目	予 算 額	積 算 根 拠
「Bチャレ」助成金	835,000 円	
NPOとらいあんぐる資金	500 円	
	円	

支出 835,500 円

費 目	予 算 額	積 算 根 拠
企画アドバイザー料	45,000 円	管理栄養士・ケアマネの人材紹介や育成とオンライントライアルとして @5,000円×のべ8人（年間）
管理栄養士プログラム開発謝礼	175,000 円	25,000円×7回、プログラム開発への協力
専門職謝礼	112,000 円	4,000円×のべ28人 理学療法士等専門職
専門職受入補助者報酬	8,500 円	500円×のべ17人（14回）
企画運営事務局活動費	495,000 円	45,000円×11か月 関係構築・人材育成（架け橋や専門職）・連絡調整・成果や課題の蓄積と共有・高齢者の社会参加を促進する外注費・役務費など